

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報 2007-5

発行日：平成19年5月10日
発行元：計画・交通研究会
〒102-0083
東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F
TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489
E-Mail= jimukyoku@keikaku-kotsu.org
Homepage=http://www.keikaku-kotsu.org/

目次

Opinion	1-2
歴史的評価と都市・地域づくり	
News Letters	2-7
事業報告・活動報告	
Announcement	8
研究会・催事の御案内	
Publication / Documents	9-13
刊行物・文献資料	
Backyard	13-14
事務局通信	

□ Opinion

歴史的評価と都市・地域づくり

渡部與四郎

私は、月に2回程、計交研の会議室で、「空間評価、地域づくり」の研究会に出席している。会議室の入り口には、「八十島先生」の遺影写真が掲げてあり、そこで、一礼をし、襟を正し、先生の言を反芻する。その言とは、生前、先生は数多くの委員会を主宰されておられたが、「必ず、一つでも質問される」事である。その原点は、「何時も、緊張感で臨もう」との気概にあったと推察する。その更なる原点は、鈴木雅次先生（土木界での唯一の文化勲章受章者）の言動にあったと拝察する。鈴木先生は、苫小牧・鹿島人工港はじめとする「掘り込み式」港湾等を研究・開発され、戦後の高度成長を牽引した臨海型産業の立地を可能とした偉人である。私も拝聴した事があるが、大委員会後の寛ぎの場では、その年の「レコード大賞」の歌を、諳んじて歌われ、当時の八十島先生等に向かって「計画者は、何時も瑞々しい気持ちで生きなければならないよ」と、笑いながら仰っておられた姿を思い出す。

私も喜寿を迎えた時、八十島先生の最後の講話になった「美しい国土づくり」にあやかるべく、美学の書を求め歩いた。しかし、有名書店にも無く、仕方なく、旧制高校時代愛読した「美学概論（阿部次郎著）」の要旨を思い出して

みた。それには、美とは「多様と統一、通相、アクセント」の3構成から成る事、その「多様と統一」を説明する事例として、交響曲の指揮者が、多種多様な楽器の奏でる音色・強弱等をコントロールし、第1～第4楽章にわたり聴衆に多大の感銘を与える「音楽」を取り上げていた。また、「通相、アクセント」の例として、霧の深い海辺での灯台の色調（光芒、霧笛等）を取り上げ、説明していたと思う。当時（終戦直後）夏休みの宿題として、「会津・盆踊りの美的考察」を恩師・山崎先生に提出したところ、意外にも雑誌「哲学概論」に掲載され、こんな筈ではない？筈と、疑心暗鬼になった青二才時代の自分を思い出す。

昭和54年、国際道路会議の後、クロアチアのドブローニク市、ベネチア市を訪問、担当者とは会談したことがある。いずれの都市も「世界遺産」の指定を受けている。先ず、ドブローニクの旧市は、直径300mの4世紀頃できた城壁と、青いアドリア海に囲まれ、何処から見ても「絵」になる街なみを有し、「アドリア海の真珠」といわれている。我々が訪れた頃は、多くのドイツ人等が長期休暇を、歩行者専用の表・裏通り（手工芸、食文化街）一杯になって、楽しんでた。この様な光景は、「いつも見ら

れるもの」と市担当者は言う。次のベネチア市では、「1000年、生き続ける都市」を目指し、アドリア海の汚染対策としての下水道工事を、由緒ある家を壊さずに敷設できる工法が、論議になった。その際、鍵に成る論点は、各戸を構成する部屋の壁に描かれている絵の保全、即ち、部屋の各立面部の保全が、トータルとして可能に成るかが、「行き続けられる分子」と評価される点であった。勿論、9世紀以降、香辛料輸

入で富を蓄積し、現在ガラス工芸産業をはげんでいる「市民権」者の民主的運営の安定成長システム力は、忘れてはならないのは当然である。

以上をふまえ、我々会員は、超長期的な3次元のマスタープランの樹立できる能力と、実務者の能力を、併せ持った人材になれる「場づくり」を、計交研に創る事が急務となろう。

(計画・交通研究会 フェロー会員/
中国同済大学顧問教授)

□ News Letters

事業報告・活動報告 □

■2007年4月見学会

●目的：東京ミッドタウン見学会（土木学会 CPDプログラム認定）

●日時：平成17年4月9日（月）15時～19時

●参加者：黒川会長以下47名

●現地説明・案内

三井不動産 開発企画部 環境創造グループ 上席統括 竹内耕司氏、専門役 梅園輝彦氏、副参事 小友 剛氏、副参事 影山博幸氏、グループ長 清水弘之氏、中田由紀氏

○タワービルの会議室にて約1時間プロジェク

トの説明をお受けした後、三々五々ビルの内外の見学を行なった。また、見学終了後、懇親会をおこない和やかに参加者相互の親睦が図られた。

以下にご参加者から投稿いただいた文を掲載する。

「東京ミッドタウン見学会に参加して」

大成建設株式会社横浜支店開発部部长

中谷 昌実

今年の見学会は昨年3月の日本橋エリアの見学会に引き続き、著しく変貌を遂げる東京都心部視察の第2弾である。

〔東京ミッドタウン開発の概要〕

面積；約102,000㎡（約30,000坪）

延床面積；約563,800㎡（六本木ヒルズの2割減）

オフィス；専有面積約184,000㎡（約55,700坪）

住宅；約96,500㎡（410戸）、

サービスアパートメント；約21,000㎡（107戸）

ホテル；約44,000㎡（248室）

商業；約71,000㎡（約130店）

その他（ホール、美術館など）、地下通路

2001年9月財務省の公開入札により1800億円
で入手

総工事費1900億円（地下通路30数億円含む）

〔建物の構成〕

ミッドタウンタワー 54階（高さ248m）、
地下5階

ミッドタウンイースト 25階、地下4階

ミッドタウンウェスト 13階、地下3階

ガーデンサイド 8階、地下3階



▲タワービル

パークレジデンス 29階、地下2階
デザインウィング 1階、地下1階

今年3月30日にオープンした東京・六本木「東京ミッドタウン」を開業10日目で会員会社から47名の参加を得て、見学会が実施された。地下鉄日比谷線六本木駅直結という好立地にオフィス、ホテル、美術館、住宅、130のショップ、レストランが入居する最新の巨大な街である。約10万㎡の敷地には6棟の建物が南側に集中して建ち、緑地率30%以上のオープンスペースが北側に広がる。一番高いミッドタウンタワーは地上54階建てで、高さ248mは都内一。ヤフーなどが入居し、高層階には外資系の超高級ホテル「ザ・リッツ・カールトン東京」が入る。別のオフィスビル2棟には富士フィルムホールディングスとコナミが入居する。

東京ミッドタウンの土地の歴史は、戦前は近衛師団麻布歩兵連隊がこの地に置かれており、周辺の赤坂、青山一帯とともに麻布地区は、軍隊の町という性格を帯びていた。戦後一時的に連合軍の進駐があったものの、その後長らく旧防衛庁の拠点として世間とは隔絶されていた場所であった。更に歴史をさかのぼると江戸時代は、麻布・六本木地区から新橋・虎ノ門にかけて大名屋敷が集中し、ミッドタウンは萩藩毛利家下屋敷であった。また、幕末からは周辺の寺院に外国公使館が設置され始めたのがきっかけに、現在麻布界限には40ヵ国以上の大使館、9ヵ所のインターナショナルスクールが存在し、居住する外国人の密度も東京一高くなっている。



▲ビルの吹き抜けは竹林で装飾

街づくりのコンセプトは、「Diversity On the Green」、豊かなみどりの中に「デザインを街のアクティブティに」とデザインを重視した「多様性ある街」を構築したという。

見学の第一印象は、オープン間もない平日であっても、さぞ多くの見物客で混雑しているのだろうと予想して行ったが、ミッドタウンの中は、緑の豊かな広い緑地、様々なアートが置かれ落ち着いたオープンスペースの効果のせいか、混雑からくる圧迫感が感じられないのは意外であった。特に多くの客をひきつける130のショップ、レストランは、ルイ・ヴィトンやティファニーの高級ブランドは入っていないが、個性あふれるインテリアとデザイン系のショップが多い。商業施設は、「都心の上質な日常」をコンセプトに、「ガレリア」と呼ばれる全長150mの4層吹き抜けの回廊状に配置されている。この開放的な吹き抜け空間には、本物の竹を配置し、吹き抜けの壁面部のデザインに工夫を凝らし、落ち着いた演出効果を出している。昼が過ぎていても人が並んで混みあっているレストラン、しかし中にはテイクアウトも可能な店があり、建物の外に出て広い緑地の中で食べるということもできる。また、初めてこの街に立っても自分がどこにいるのか、分りやすく出来ていると感じた。高齢者が来場しても安心してウィンドショッピングが楽しめ、みどりの中で一休みできるようになっているのも特徴である。

見学を終えてからの印象として、ひと昔前の夜のバー、クラブが集積した街、六本木を知るものからすれば、まさに隔世の感がある。都市としての面白さは、例えば、計画・交通研究会で見学した埼玉新都心、あるいは横浜で開発が進むみなとみらい地区等のように整然と街区道路を整備して高層建築を配置した都市よりも、建物を集中させることで賑わいを演出し、その一方で緑あふれる空間大きくまとめて街を形成するという手法は、都市に生活する人に潤いを与えるもので、これからの都市の再開発のあり方を見直すきっかけになるものではないだろうか。

■2007年4月共催セミナー

●道路投資のプロジェクト評価に関する国際セミナー

●日時：平成19年4月10日(火)13:00～17:20

●場所：政策研究大学院大学1階「想海楼ホール」

●プログラム（敬称略）

第一部 各国のマニュアル紹介（7ヶ国）

○イギリス Andrew Clarke
（モット・マクドナルド社）

○フランス Maxime Jebali
（フランス交通省道路総局）

○スウェーデン Lennart Kallander
（スウェーデン道路局）

○ノルウェー Kjell Ottar Sandvik
（ノルウェー道路局）

○ニュージーランド Ian Melsom
（ニュージーランド陸運局）

○アメリカ James March
（米国連邦道路庁：ペーパーのみの参加）

○日本 安藤 淳
（国土交通省道路局）

第二部 意見交換（関心テーマの各国比較）

○コーディネーター 森杉 壽芳
（東北大学）

●共催

- ・計画・交通研究会
- ・PIARC（世界道路協会）TC1.1
- ・（社）日本道路協会（PIARC日本国内委員会）

●参加者：約140名（国土交通省・各自治体関係者、大学・研究機関、民間コンサルタント）

〔開催の目的〕

PIARC（世界道路協会）は道路技術・道路交通政策の向上等を目的として設立された国際技術協力機関であり、技術委員会（TC）を設けて研究等を行っている。この技術委員会の1つであるTC1.1会合が平成19年4月11日（水）～13日（金）まで日本において開催された。本会合に出席する各国の委員はプロジェクト評価の専門家であるため、この機会を利用し、各国委員と日本側関係者とで道路投資の費用便益分析をはじめとするプロジェクト評価に関して相互

に情報交換・情報共有を図ると共に、わが国の今後の費用便益分析を含むプロジェクト評価の検討に資する知見等の蓄積に活用する目的で本セミナーは開催された。

〔各国のマニュアル紹介概要〕

各国の事業評価手法や採択基準、事後評価の内容等の概要は以下の通りである。

★イギリス

・貨幣換算される効果とされない効果を1枚の総括評価表（Appraisal Summary Table：AST）にまとめ、その結果を基に採択事業を決定する。

・事後評価は、主要プロジェクトを対象に、供用開始1年後（交通量のみ予測と比較）と5年後（効果全体を予測と比較）に行われる。

★フランス

・貨幣換算される効果とされない効果を定量的・定性的に把握する「混合的なアプローチ」によって採択事業を決定する。

・事後評価は供用開始後3～5年の間に実施する。

★スウェーデン

・貨幣換算される効果に加え、貨幣換算されない効果も考慮して採択事業を決定する。

・事後評価は500万ユーロ以上のプロジェクトを対象に、供用開始後1～3年の間に実施する。

★ノルウェー

・貨幣換算される効果に加え、貨幣換算されない効果も考慮して採択事業を決定する。

・事後評価は投資コスト2,500万ユーロ以上のプロジェクトを対象に、供用開始5年後に実施する。

★ニュージーランド

・費用便益比（B/C）が1.0を超えることが事



▲6ヶ国の発表者とコーディネーター

業採択の前提条件であるが、その他の貨幣換算される効果や貨幣換算されない効果も考慮して採択事業を決定する。

- ・事後評価は建設後1~2年の間に行い、コストに関して予測と実績の比較を行う。

★アメリカ（ペーパーのみの参加）

- ・事業採択の際に費用便益分析は義務づけられてはいないが、主要プロジェクトでは行われている。それ以外にも、社会・経済・環境への影響などのさまざまな要因を考慮して採択事業を決定する。
- ・高速道路や輸送システムの状態・パフォーマンスを分析した報告書を2年ごとに議会へ提出する。

★日本

- ・費用便益比（B/C）が1.0を超えることが事業採択の前提条件であるが、貨幣換算される効果だけではなく、貨幣換算が困難な定量的、定性的な効果項目等を含めて総合的に評価し、採択事業を決定する。
- ・事前・再評価（中間）・事後の3段階評価を実施する。再評価により、見直し、あるいは中止となった事業もある。事後評価は5年以内に行われる。

〔意見交換（関心テーマの各国比較）の概要〕

セミナーの後半では、参加者からの質問を含め、さまざまなテーマについて意見交換がなされた。主要なテーマに関する議論の概要は以下の通りである。

①費用便益比（B/C）がプロジェクト採択の前提条件になるか

- ・日本やニュージーランドでは、B/Cが1.0を

超える（便益が費用を上回る）事業しか採択されない。

- ・一方、スウェーデンではB/Cに関する基準は特になく、またイギリスやノルウェーでは、B/C比はあくまでの評価の一項目であり、1.0未満の事業であっても採択される事業はある。

②貨幣換算される効果

- ・各国のマニュアル紹介から、貨幣換算される効果だけでなく、貨幣換算されない効果も考慮した上で事業採択が行われていることが分かった。しかし、どのような効果項目が貨幣換算されるかについては、各国で違いが見ら

国名	貨幣換算される効果項目
各国共通	<ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 (VOT) ・走行経費減少便益 (VOC) ・交通事故減少便益 (VOS)
イギリス	信頼性、広範な経済影響、交通手段多様性、大気汚染
フランス	走行快適性、騒音、大気汚染、CO ₂
スウェーデン	走行快適性、健康効果、騒音、大気汚染、CO ₂
ノルウェー	騒音、大気汚染
ニュージーランド	走行快適性、走行中の不快感、CO ₂
アメリカ	大気汚染
日本	各国共通の3便益のみ

れた（下表参照）。

③社会的割引率と評価期間

- ・各国の割引率は3~4%がほとんどであるが、ニュージーランドのみ10%と高い（今後下げることが検討中）。
- ・評価期間は40年以上の国が多い中、ノルウェーでは25年以上の交通予測が難しいとして、評価期間を25年としている。また、ニュージーランドも同様に評価期間は25年だが、26年目以降の残存価値を便益に入れてもよ

国名	社会的割引率	評価期間
イギリス	3.5%(前30年) 3.0%(後30年)	60年
フランス	4%	50年
スウェーデン	4%	40年
ノルウェー	4.5%	25年
ニュージーランド	10%	25年
アメリカ	3%	40年
日本	4%	40年



▲セミナー内容を熱心に聞く参加者

いことになっている（下表参照）。

④その他の議題

上記の他、健康・自転車使用・医療などの効果の貨幣換算方法、リスク・不確実性の取り扱い、公的資金の限界費用の取り扱い等について、活発な議論が交わされた。

（文責：東北大学 森杉 壽芳）

■2007年4月理事会・総会・懇親会

【理事会】

●日時：平成19年4月25日（水）17:00～17:45

●場所：プラザエフ 8F パンジー

●出席数：14名、委任状11通 計25（理事総数31）にて成立

●議事

1.第29回通常総会付議事項の審議

☆詳細は同封の第29回総会資料参照

(1)平成18年度 事業報告および収支決算について（原案通り可決）

(2)平成19年度 事業計画案および収支予算案について（原案通り可決）

(3)監事欠員に伴う補充選任等（原案通り可決）



▲総会会場風景

2.会員移動の承認（原案通り可決）

【総会】

●日時：平成19年4月25日（水）18:00～19:00

●場所：プラザエフ（主婦会館）8F スイセン

●出席数：40名、委任状61通 計101（正会員総数119）にて成立

●議事 ☆詳細は同封の第29回総会資料参照

(1)平成18年度 事業報告および収支決算について（原案通り可決）

(2)平成19年度 事業計画案および収支予算案について（原案通り可決）

(3)監事欠員に伴う補充選任等（原案通り可決）

【懇親パーティー】

●日時：平成19年4月25日 19:00～20:30

●場所：プラザエフ7F カトレア

黒川会長挨拶の後、会員相互の交流・親睦がはかられた。また当懇親会はささやかながら前会長・中村英夫先生のオイゲン-ウント-イルゼ-ザイボルト賞受賞決定のお祝いを兼ねて行われた。また、新規入会の方を中心に挨拶・自己紹介・抱負などが語られた。森地副会長の中締め後流れ解散。



▲受賞の挨拶をされる中村前会長



▲黒川会長挨拶



▲懇親会中締め挨拶の森地先生

■2007年4月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅶ講・第1回)

●日時：平成19年4月18日(水) 17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

(財)日本交通公社 常務理事 林清氏

①草津温泉発展の歴史

②草津ブラッシュアップ計画

●参加者：15名(うち計交研関係5名)

2007年度の共催セミナーは、参加者の調査・研究等の成果の報告(フォーラム当て)と観光地づくりの事例紹介を行っていく。

多くの専門分野の方々の報告によって、幅広い議論を展開していく予定である。

[講義概要]

◆フォーラム当て No.1◆(林 清)

草津温泉発展の歴史

主に戦後の歴史を計画づくりとの関連で整理した。常に新しい魅力づくりに地道に取り組み、かつ長年にわたり継続的に取り組む姿勢が、現在の草津温泉が人気を保つ大きな要因となっていると思われる。

1. 戦前の歴史

鎌倉時代から全国的に知られ、江戸時代に温泉番付の東の大関としてさらに有名に。近代的な発展は、明治時代のベルツ博士による指摘が大きなきっかけとなる。スキーの歴史も古く、大正2年に導入されている。昭和15年には軽井沢と結ぶ草軽鉄道が開通する。

2. 観光地化の時代(昭和20年代～30年代)

昭和20年に国鉄長野原線開通、昭和24年に上信越国立公園指定、スキー場を中心とした開発整備に取り組む。昭和37年田村剛博士・鈴木忠義助手による「草津高原開発計画」が策定される。

3. 開発本格化の時代(昭和30年代後半～)

草津志賀高原ルート開通、長野原線電化と特急運転など交通基盤が整い、入込客が急増。昭和43年に東大都市工・鈴木忠義研究室による「草津観光開発基本計画」が策定され、高原地域にホテルやペンションが立地するほか、町中でも、湯川の公園化、湯畑改造などが進む。ス

キー場の本格整備が進み、国有林野が発展計画を策定。

4. リゾート都市形成の時代(昭和50年代)

住民参加による「草津町社会開発計画」が東工大社工・鈴木忠義研究室により策定された。その後、地元が自主的に、スキー場の発展や草津夏期国際音楽アカデミーの開催などによる新たな魅力づくりをスタートした。

5. リゾート法とバブル景気による開発の時代(昭和60年代～)

新たなスキー場、ゴルフ場、コンサートホールなどが整備されるが、バブル崩壊後には負担に。高原部に高層リゾートマンションが建設され、環境・景観が問題視されるようになる。

6. 町の立て直しの時代(平成4年～)

リゾートマンションの凍結宣言、景観形成の指針を定める。スキー場の町財政圧迫や旅館の経営不振などが地域の問題に。新たな魅力づくりとして、道の駅整備、泉質主義宣言、ザ・スパ草津。また、自動車進入禁止の社会実験、温泉のレアメタル実験プラントなど先端を行く取り組みがなされる。

◆観光地づくり事例紹介-1◆(林 清)

草津温泉ブラッシュアップ計画

[主体] 草津温泉ブラッシュアップ協議会

[期間] 平成9～11年

[課題] スキー人口の減少、苦戦の温泉観光地/旅館、商店街の経営悪化(客層の変化への対応の遅れ)/交通動線の混乱

[目標] 草津温泉に磨きをかけるための行動計画の策定/もう1泊したくなる草津温泉・国際的な温泉高原リゾート

[成果] 女将さんのおすすめマップ(魅力の発見とPR)(旅館組合女将会による実体験に基づいたマップ)/シャトルバスの運行/パークアンドライドの社会実験

[失敗] ワールドカップの事前キャンプ誘致

[プロジェクトの段階とキーワード]

◇企画：回遊の仕組みづくり/楽しく・快適な温泉地

◇計画：観光関係団体組織の連携

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

■2007年5月 定例研究会 (土木学会CPDプログラム認定)

- 演題：「万人のための交通」
- 講師：國枝 美佳 氏（世界銀行 コンサルタント）
- 日時：平成19年5月14日（月）15～17時
- 場所：計画・交通研究会 会議室

【講演概要】

「万人のための交通」を目指すことにより、途上国の貧困層の7割を占めるといわれている女性、人口の1割と言われている障害者、高齢者、地理的に隔離されている農村人口の貧困が緩和される。世界銀行「交通と社会的責任」のコンサルタントとして、また最近ドイツ援助庁によって発行された「入門 ジェンダーと都市交通」の共同執筆者の一人として、世界銀行の知見や事例や「入門 ジェンダーと都市交通」について紹介する。

【講師略歴】

慶應義塾大学総合政策学士
London School of Economics Social Policy and Planning in Developing Countries 修士課程修了
2000年～2005年、アイ・シー・ネット株式会社 研究員
2005年より世界銀行「交通と社会的責任」コンサルタント

2007年3月発行の「入門 ジェンダーと都市交通」(英文) 共同執筆者

- 司会：東京海洋大学 教授 兵藤 哲朗

■2007年度「計交研・当て塾共催セミナー」

- 開催日時

第1回	4月18日（水）	17：00～19：00
第2回	5月9日（水）	〃
第3回	5月24日（水）	〃
第4回	6月13日（水）	〃
第5回	6月27日（水）	〃
第6回	7月11日（水）	〃

*8月は休講

第7回以降は9月～12月に開催の予定。

- 場所：計画・交通研究会会議室

- 内容：

前半：調査・企画・計画・研究・整備事例等の報告

*参加者による報告と鈴木先生+1名によるコメント+討議

後半：観光地事例研究（事例により様々な課題を検討）

*スライドによる観光地の紹介と鈴木先生のコメント+討議

※各回の報告者を募集しております。計交研会員の方々も、是非ご応募ください。報告希望者は事務局まで。

■ 2006（平成18）年度学位取得論文

以下に個人会員が指導教員となった博士論文、修士論文、（卒業論文）を紹介します。ご希望により閲覧・貸出および個別研究会、定例研究会の開催も致します。

●大学・大学院名・学科・専攻名・研究室名（指導教官名）＜大学名50音順＞

○論文著者名／論文表題／キーワード／学位取得年月日／学位区分／レベル（Ⅰ＝基礎的、Ⅱ＝改良後実務応用可能、Ⅲ＝実務応用可能）／URL

●宇都宮大学・工学部・建設学専攻・地域計画学研究室

○繁野祐治／郊外店舗立地時における交通行動の変化が外部性に及ぼす影響に関する研究／交通アセスメント、環境評価／平成19年3月／修士／Ⅱ／<http://plans.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/index.htm>

○清水靖史／LRTの沿線土地利用特性からみた交通需要予測に関する研究／LRT、需要推計、環境評価／平成19年3月／修士／Ⅱ／<http://plans.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/index.htm>

○竹田理恵／交通まちづくり社会実験が中心市街地活性化に及ぼす影響に関する研究／トランジットモール、社会実験／平成19年3月／修士／Ⅲ／<http://plans.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/index.htm>

●埼玉大学大学院理工学研究科建設工学専攻・設計計画研究室

○古城雅史／世界遺産地区における駐車場予約優先システム社会実験の効果に関する研究／駐車場予約、世界遺産、社会実験／平成19年3月26日／修士／Ⅲ

○五反田八紘／交通計画プロセスにおける「交通シミュレーション・交通社会実験・本格実施」サイクルに関する研究／交通シミュレーション、交通社会実験、PDCAサイクル／平成19年3月26日／修士／Ⅲ

○中村孝之／交通計画プロセスにおける交通社会実験の有効性に関する研究／交通社会実験／平成19年3月26日／修士／Ⅱ

○金俊鏞／情報提供下における自動車運転者の経験値を考慮した経路選択行動に関する研究／経路選択、情報、経験／平成19年3月26日／修士／Ⅱ

●埼玉大学大学院・理工学研究科・環境制御工学専攻・都市基盤工学研究室

○狩野哲志／夜間景観における都市河川橋梁とその背景の相互作用／夜景、橋梁、景観／平成19年3月25日／修士／Ⅲ

○山口剛志／歩道照明の調光制御が明るさ感に及ぼす影響／歩道、照明、景観／平成19年3月25日／修士／Ⅲ

○山口真史／景観構成要素の空間分布に基づく道路景観評価手法／道路、景観、評価／平成19年3月25日／修士／Ⅱ

○SAMARASEKARA GANGA NIROSHA／Effects of street vegetation on pedestrian's spatial cognition at multiple spatial knowledge levels／街路、空間、認知／平成19年3月25日／修士／Ⅰ

●首都大学東京 大学院工学研究科土木工学専攻 計画・交通研究室

○津田浩輝／片側1車線と多車線の高速道路における追従挙動比較分析／追従挙動、高速道路、ボトルネック、走行実験、ドライビング・シミュレータ／平成19年3月23日／修士／Ⅰ

○磯田大輔／図形情報板判読性の評価と影響要因分析／図形情報板、判読性、地図情報、経路検索、ドライビング・シミュレータ／平成19年3月23日／修士／Ⅰ

○堀江祐樹／活動へのアクセシビリティ概念を用いたコミュニティバス施策の評価／アクセシビリティ、コミュニティバス、公共交通不便地域、GIS／平成19年3月23日／修士／Ⅰ

●政策研究大学院大学・開発政策プログラム

○市田賢／災害時における地下空間での環境認知と歩行者避難行動の考察／平成19年3月／修士／Ⅲ

○水口貴尋／立体的な都市空間構造における移動装置に着目した回遊性に関する研究／平成19年3月／修士／Ⅲ

●筑波大学 大学院システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 都市・交通研究室

- 田中ディエゴフェルナンド／Risk Assessment of Value for Money of Public Private Partnerships Road Projects in Developing Countries : Case Study of a Toll Road Concession Project in Colombia (発展途上国のPPP道路プロジェクトにおけるVFMのリスク・アセスメント: コロンビアにおける有料道路プロジェクトを例に) / PPP (Public Private Partnerships) ・ VFM (Value for Money) ・ Risk Assessment ・ Developing Country / 平成19年3月 / 博士 / II
- 久保雅子 / 来訪者満足度に基づく観光スポットの心理的容量の計測 / 心理的容量 ・ 観光者満足度 ・ 観光心理 / 平成19年3月 / 修士 / II
- 筑波大学 大学院環境科学研究科 環境科学専攻 都市・交通研究室
- 川田真理絵 / つくばエクスプレス開業が周辺住民の交通に対する意識および行動に与えた影響 / 交通行動 ・ パネル分析 ・ 新線開業効果 / 平成19年3月 / 修士 / I
- 宮坂準 / 自動車利用実態に基づく電気自動車の普及可能性に関する考察 / 長期間行動 ・ 電気自動車 ・ 道路交通センサス ・ プローブ ・ シミュレーション / 平成19年3月 / 修士 / II
- 李建梅 / 南京市における道路横断歩行者の挙動に関する研究 / 交通安全 ・ 歩行者 ・ ギャップアクセプタンス / 平成19年3月 / 修士 / I
- 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻物流システム研究室
- 海老原弘次 / 病院において震災時の救急初療に必要な医薬品の量の推計方法に関する研究 / ロジスティクス、災害、備蓄物資 / 平成19年3月23日 / 修士 / I / <http://www.tosho-u.ac.jp/~kuse/staff/pdf/m2ebihara.pdf>
- Ruslan Sviridenko / Transportation methods of the commodities on the Japan-Russia trade. / 日露貿易、輸送機関 / 平成19年3月23日 / 修士 / I / <http://www.tosho-u.ac.jp/~kuse/staff/pdf/m2ebihara.pdf>
- 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻藤井研究室
- Van Tan Hong / A cross six Asian country analysis in attitudes toward car and public transport and the effect of these attitudes on behavioral intention of future commuting mode choice / Attitude toward car and public transport, Behavioral intention, Commuting mode choice / 平成18年9月30日 / 修士 / I / <http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 人間環境システム専攻 屋井研究室
- 林和史 / VR走行実験データを活用した多重事故発生時の運転挙動に関するモデル分析 / 多重事故、ドライビングシミュレータ、都市内地下道路 / 平成19年3月 / 修士 / III / http://www.plan.cv.titech.ac.jp/yailab/thesis_f.html
- コフモニラット (KOV Monyrath) / FREQUENCY DESIGN OF BUS TRANSIT IN MIXED URBAN TRANSPORT NETWORK (都市の混合交通ネットワークにおけるバス交通の頻度に関する分析) / frequency design, mixed traffic, combined modal-split assignment model / 平成19年3月 / 修士 / I / http://www.plan.cv.titech.ac.jp/yailab/thesis_f.html
- 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻藤井研究室
- 太田裕之 / 事実情報提供が環境配慮行動に及ぼす効果についての研究 / 環境配慮行動、事実情報提供法、地球温暖化問題 / 平成18年9月30日 / 修士 / I / <http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 水野絵夢 / 国民の公共事業に対する賛否意識に関する政治心理学的研究 / 世論、公共事業、政治心理学 / 平成19年3月31日 / 修士 / I / <http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 鈴木春菜 / 土木事業による人々の行動の変化が地域への感情に与える影響に関する研究 / 地域愛着、風土、消費行動 / 平成19年3月31日 / 修士 / I / <http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 人間環境システム専攻 屋井研究室
- 泊尚志 / 交通計画におけるパブリック・インボルブメントの構成要件に関する基礎的研究 / 計画手続き、パブリック・インボルブメント、構成要件 / 平成19年3月 / 修士 / I / http://www.plan.cv.titech.ac.jp/yailab/thesis_f.html
- 高田潤一郎 / ターミナルレーダ管制シミュレータの開発と管制指示方法に関する基礎的分析 / 航空管制、ターミナルレーダ管制、シミュレータ、着陸順序付け、安全間隔 / 平成19年3月 / 修士 / I / http://www.plan.cv.titech.ac.jp/yailab/thesis_f.html
- 庄曉韻 / Analyzing Inter-regional Travel Mode Choice Behavior with Multi Nested Generalized Extreme Value Model (MN-GEVモデルを用いた地域間交通モード選択行動の分析) / multi-modal route choice, inter-regional travel, multi-nested GEV model, air, high-speed rail / 平成19年3月 / 修士 /

- I / http://www.plan.cv.titech.ac.jp/yailab/thesis_f.html
- 吉田育央／広域交通シミュレーションを用いた震災後における道路交通機能維持方策の分析／交通シミュレーション、震災後道路ネットワーク、道路復旧／平成19年3月／修士／II／http://www.plan.cv.titech.ac.jp/yailab/thesis_f.html
 - 瀬川進太／地域特性に着目したアメリカの州長期交通計画の考察／業績評価、州長期交通計画、米国陸上交通長期法／平成19年3月／修士／I／http://www.plan.cv.titech.ac.jp/yailab/thesis_f.html
 - 東京大学大学院 農学生命科学研究科 森林科学専攻 地域資源計画学研究室
 - 浅村一冬／観光の魅力という観点から捉えた草津温泉の街路沿道の空間構成／温泉地、接道部、空間の構成／平成19年3月22日／修士／I
 - 東京大学大学院・工学系研究科・社会基盤学専攻・地域/情報研究室
 - 安井仁／坂路に着目した都市空間の変容過程～帝都復興までの九段坂を対象に～／九段坂、坂の変遷史／平成18年9月29日／修士／II
 - 東京大学大学院・工学系研究科・都市工学専攻・都市交通研究室
 - 杉田幸浩／地方鉄道の経営改善に関する研究 一成功事例の共有化に着目して一 /地方鉄道、経営改善／平成19年3月22日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 杉谷芳宏／日本および東アジアにおける天候を考慮した交通施策に関する基礎的研究 /天候、交通施策、東アジア／平成19年3月22日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 瀬戸祐介／健康に着目した交通手段転換に関する研究／健康、交通手段転換、モビリティマネジメント／平成19年3月22日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 田澤直幹／潜在クラスを考慮した中心市街地回遊行動モデルの構築とシナリオ評価／回遊行動、潜在クラス／平成19年3月22日／修士／III／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 東京大学大学院・新領域創成科学研究科・社会文化環境学専攻・原田研究室
 - Ahmed Ibrahim Ibrahim Mosa／Activity Based Modeling : Intra-Household Interaction, Attitudes and Telecommunication Use／Activity Based Modeling, Intra-Household Interaction／平成19年3月22日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 有賀敏典／スケジュールリングを考慮した観光周遊行動モデルに関する研究／観光交通、スケジュールリング／平成19年3月22日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 小野由隆／企業駐車場活用型カーシェアリングの成立可能性に関する研究／カーシェアリング、企業駐車場／平成19年3月22日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 藤田真弓／都心商業地における歩行空間のアクセシビリティに関する研究 一渋谷を事例として一／都心商業地、歩行空間、アクセシビリティ／平成19年3月22日／修士／I／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 堀智尋／過疎地域における住民主導の交通システムに関する研究 一過疎地有償運送事例の検討を通して一／過疎地域、有償運送／平成19年3月22日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
 - 東京大学大学院 農学生命科学研究科 森林科学専攻 地域資源計画学研究室
 - 高橋宏美／江戸名所図会に見られる休憩スペースの立地とデザイン／江戸名所図会、街路、休憩／平成19年3月22日／修士／I
 - 東京大学大学院・工学系研究科・社会基盤学専攻・地域/情報研究室
 - Guan Fang／Remote Sensing Based Land Cover Classification with Common Categories for Big Cities in East Asia : An empirical study using Terra ASTER Data／Land cover, Classification／平成18年9月29日／修士／I
 - 板橋慎寛／地形的側面から見た「ベックマンの官庁集中計画」の新解釈／ベックマン、地形／平成19年3月30日／修士／I
 - 中田真人／江戸の都市景観の再現に関する研究一富士山と江戸城の眺望を中心として一／江戸都市景観、富士山、江戸城／平成19年3月30日／修士／III
 - 廣尾啓／旧版地形図にみる東京の地形改変の歴史／旧版地形図、地形改変／平成19年3月30日／修士／II
 - 和山貴幸／都市内撮影画像の自動空間配置に関する研究一新たなる都市空間表現法の構築へ向けて一／画像マッチング、標定／平成19年3月30日／修士／I

- 東京大学大学院・工学系研究科・都市工学専攻・都市交通研究室
- Puspita Dirgahayani/Preliminary Evaluation of Developing Closed Trunk-and-Feeder Network for Bus Rapid Transit (BRT) in Jakarta, Indonesia/BRT, Jakarta, Network Model/平成18年9月29日/修士/II/http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/
- 内山岳大/交通ネットワーク変化時における統合需要モデルの有効性に関する研究/交通ネットワーク、統合需要モデル/平成19年3月22日/修士/III/http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/
- 島田祐介/大規模交通プロジェクトにおける事業費の変動に関する研究/大規模交通プロジェクト、事業費、秋田中央道路/平成19年3月22日/修士/II/http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/
- 日本大学大学院・理工学研究科・社会交通工学専攻・運輸交通計画（轟）研究室
- 栗野壽一/都市鉄道新線の開業遅延による効果損失の影響分析 一東葉高速鉄道を事例として一/鉄道、整備遅延、事後評価/平成19年3月25日/修士/II/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻 岸井研究室（都市計画研究室）
- 高岡明誉/土地区画整理事業と市街地再開発事業の合併施行の効果/実施状況、市街化促進、商業/平成19年3月/修士/I
- 日本大学大学院・理工学研究科・社会交通工学専攻・交通システム研究室
- 大島良輔/バンコクにおけるパラトランジットの運営の実態とその可能性に関する研究/パラトランジット、事業採算性/平成19年3月25日/修士/I
- 中川貴之/M-MOCSを想定した青信号通過率と緊急車両の速度変動に関する調査/M-MOCS、救急搬送、ITS/平成19年3月25日/卒業論文/II
- 柿崎裕介/光ビーコンによるプローブデータの収集可能範囲に関する研究/光ビーコン、プローブカー、ITS/平成19年3月25日/卒業論文/I
- 日本大学大学院・理工学研究科・社会交通工学専攻・運輸交通計画（轟）研究室
- 大西貴佳/公共交通経路検索ログデータを用いた非定常トリップの分析/公共交通、乗り換え検索ログ、非定常トリップ/平成19年3月25日/修士/II/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 須永貴之/交通アンケート調査におけるWebアンケート活用の信頼性について/交通調査、信頼性、サンプリング/平成19年3月25日/修士/II/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 角田健/旅客機の中・小型化による運航効率の向上の分析/旅客機、小型化、運用効率/平成19年3月25日/修士/I/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 村川貴紀/バス停付近における路上駐停車の社会的費用の計測 一通過交通に及ぼす影響分析一/路上駐車、バス交通、社会的費用/平成19年3月25日/修士/II/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻 岸井研究室（都市計画研究室）
- 長島瑞生/新都市基盤整備事業の展開に関する研究/市街地開発事業、制度史、事業手法/平成19年3月/修士/I
- 正木崇裕/路上駐車取締りの民間委託制度の導入効果に関する研究/路上駐車、駐車場、荷捌き、渋谷/平成19年3月/修士/I
- 守口直希/鉄道の立体化が地域交通に与える影響に関する研究/連続立体交差事業、交通分断、住民意識/平成19年3月/修士/I
- 日本大学大学院・理工学研究科・社会交通工学専攻・交通システム研究室
- 石坂哲宏/プローブ情報システムによる旅行時間推定の信頼性に関する研究/プローブカー、旅行時間情報、推定精度/平成19年3月25日/博士/II
- Thaned Satiennam/Study on Planning Approach for Bus Rapid Transit Implementation -Dealing with limited Conditions from Asian Cities Perspective-/BRT、F/S、環境影響/平成19年3月25日/博士/II
- 伊藤香苗/大規模ニュータウンの変容に伴う交通事故発生に関する実態分析一千葉ニュータウンを事例として一/ニュータウン、交通事故/平成19年3月25日/修士/I
- 井口智庸/沿道大気汚染物質排出量制限の下でのトリップ最大化モデルに関する研究/沿道大気汚染、二段階最適化、利用者均衡モデル/平成19年3月25日/修士/II
- 梅原隼/軌道系公共交通機関の新規開業に伴う行動変容の持続性とその心理要因に関する研究/パネル調

査、行動変容、心理分析／平成19年3月25日／修士／I

●山梨大学大学院・医学工学総合教育部・工学領域・持続社会形成専攻・北村研究室

○相沢英佳／歴史的景観保全における景観法の可能性／景観法、歴史的景観、地方公共団体、近江八幡、川越／平成19年3月31日／修士／I

●横浜国立大学・大学院環境情報学府・環境システム学専攻・交通研究室

○岩本敏彦／都市鉄道における駅まち空間の整備計画手法に関する研究／駅まち空間、連携整備、事後評価／平成19年3月23日／博士／II

○榎本拓真／中心市街地衰退の影響評価に関する研究／中心市街地衰退、影響評価／平成19年3月23日／修士／II

○瀬川悟司／ニュータウン歩行空間計画の事後評価と改善方策に関する研究／ニュータウン、歩行空間、GIS／平成19年3月23日／修士／II

○塙綾子／道路外空間を活用したバス待ち空間整備可能性に関する研究／バス停、道路外空間活用／平成19年3月23日／修士／II

●横浜国立大学・大学院工学府・社会空間システム学専攻・交通研究室

○太田淳／高齢者が進行する斜面住宅地のモビリティ評価に関する研究／高齢者交通、モビリティ評価／平成19年3月23日／修士／II

□ Backyard

事務局通信 □

訃 報

本会会報の先月号（3月9日発行3月号）の「オピニオン」に玉稿を掲載させていただいておりました、当会正会員・秋田大学名誉教授 清水浩志郎先生におかれましては、かねて病氣療養中のところ、3月22日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド(Kodak)、液晶プロジェクター (APTi) が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン (IBM Think Pad)、FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況

にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。

■個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員（地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい）が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

■原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents**：刊行物・文献資料。
- ・ **Announcement**：研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。日時・会場・事務局等を明記願います。
- ・ **Report**：報告
海外研修報告、国際会議参加報告等

●原稿執筆上のご注意

- ①原稿のテキストファイルを電子メール（推奨。

本文挿入または添付ファイルで)あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さいようお願いいたします。

- ②編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍(上限4単位=1ページ分:表題・図表を含む)になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。
- ③写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。
- ④締め切りは偶数月の15日(必着)です。

■ホームページの刷新

ホームページを刷新しました。まだ不十分なところもありますが、逐次改善していきます。ご意見をいただければ幸いです。

新アドレスは

<http://www.keikaku-kotsu.org/>

■メールアドレスが変更になりました。

計画・交通研究会 事務局

jimukyoku@keikaku-kotsu.org

EASTS (アジア交通学会) 事務局

easts@easts.info

アドレス帳の変更をお願いします。

計画・交通研究会

会長	黒川 洸
副会長	森地 茂
副会長	石田 東生
事務局長	清水 英範
会報編集委員長	藤井 聡
会報編集責任者	橋本 昭夫

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

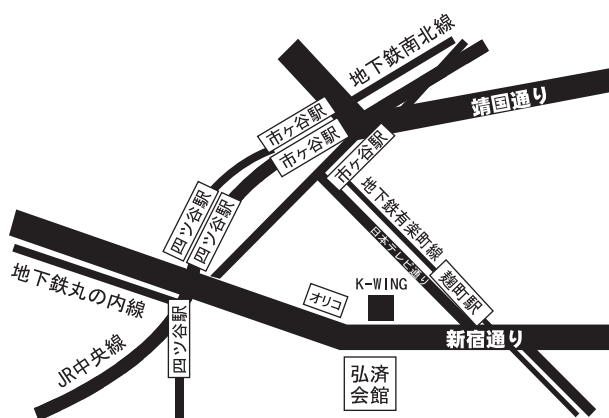
TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

Homepage =

(新) <http://www.keikaku-kotsu.org/>

(旧) <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分

弘済会館前の大きなビル(オリコ)の右隣、1階にドラッグストア(クスリ)の入った小さなビル。